



保健 保健福祉課からのお知らせ

問 保健福祉課 健康増進係
☎476-1111(131)

◆認知症シリーズ 22

認知症検査の1つである『画像検査』について教えてください



画像検査は、主に『脳の形態の変化』と『血流量』を調べます。原因疾患の見極めや早期診断に役立っています。

チェック！ 画像検査の種類と目的をチェックしましょう。

脳の形態をみるもの

エックス シーティー
X線CT (X線コンピューター断層撮影)
X線で脳の断面図を撮影し、脳の萎縮や変化がないか調べます。

エムアールアイ
MRI (核磁気共鳴コンピューター断層撮影)
脳の周りに電磁波をあて、脳の萎縮などをみます。

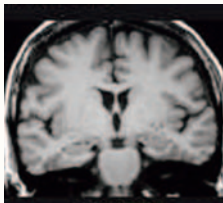
脳の機能を調べるもの

スペクト
SPECT (脳血流シンチグラフィ)
脳の血流量を調べます。

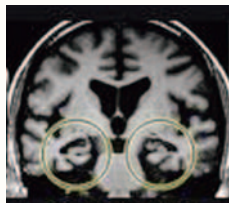
ペット
PET (陽電子放射断層撮影)
脳内のブドウ糖と酸素の代謝を調べ、脳の活動状況をみます。

MRIの画像

健常者



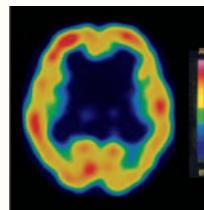
アルツハイマー型認知症



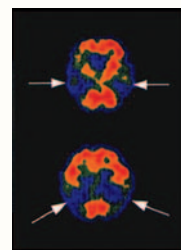
脳の萎縮を認めます

SPECTの画像

健常者



アルツハイマー型認知症



血流低下を認めます

まとめ！

X線CTやMRIでは、脳の萎縮の程度や脳室の大きさの変化、腫瘍や脳梗塞などの病変の有無がわかります。

SPECTは、脳の血流量を調べます。アルツハイマー型認知症では、初期に一定の部位（後頭葉）の血流が悪くなるため、この異常がみられることによって早期診断につながります。

SPECTとPETによる検査では、検査薬を注射（点滴）して、装置に1時間ほど入ります。そのため、重度の認知症の方には向きません。さらに、PETは医療保険が適用されないため、検査費用が高額になってしまふことが難点です。（7万～20万円くらいかかります）。